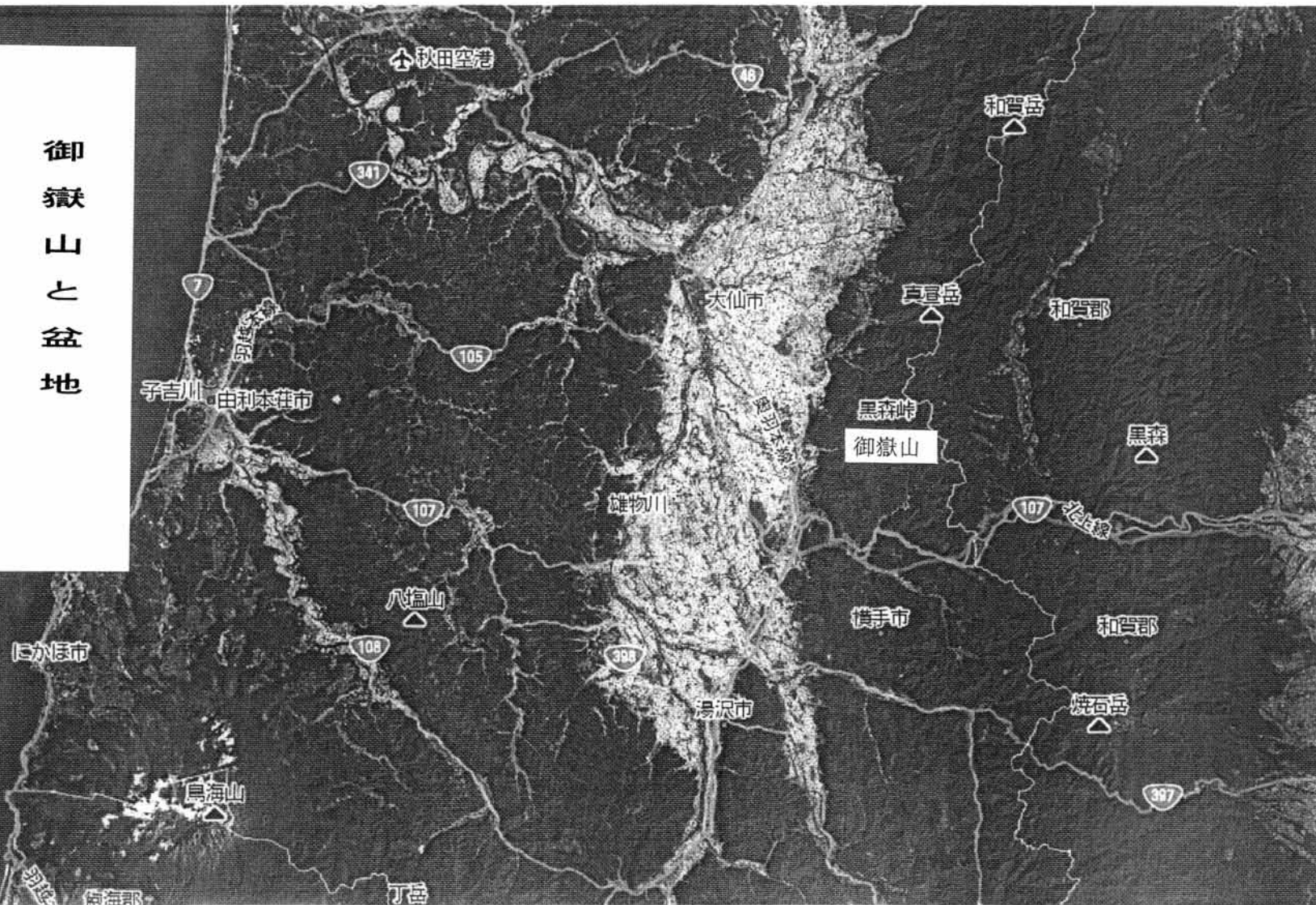


# 御嶽山と盆地

航空写真Ⅱ奥村紀夫氏提供



白滝觀音靈場縁起並正平禪寺古記録

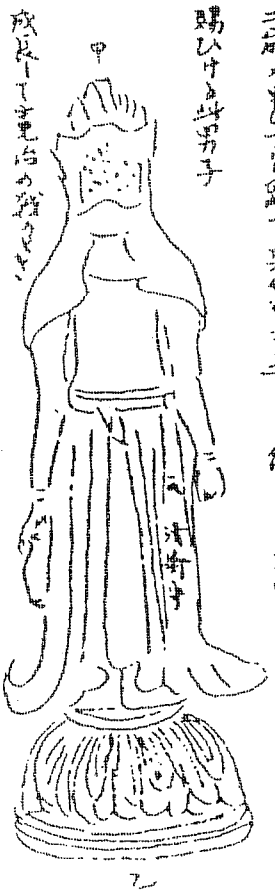
出羽國平鹿郡榎千之城外明永山般若寺遍照院入住持白濁  
 の刻のものして其寺廢れしより今に至るまで其地は山田郡の東に在り  
 其地は昔は白濁の教團の別荘にありしを其地を以て其寺の靈場と爲す  
 其地は昔は白濁の教團の別荘にありしを其地を以て其寺の靈場と爲す  
 其地は昔は白濁の教團の別荘にありしを其地を以て其寺の靈場と爲す

正平寺校中十二面觀音崇刻ノ辨傳ニ 寺高

蓮臺ノ上ニ坐す其像ノ高六寸七分其形背ノ方ニ坐す其像ノ

正平禪寺と云ふ事也

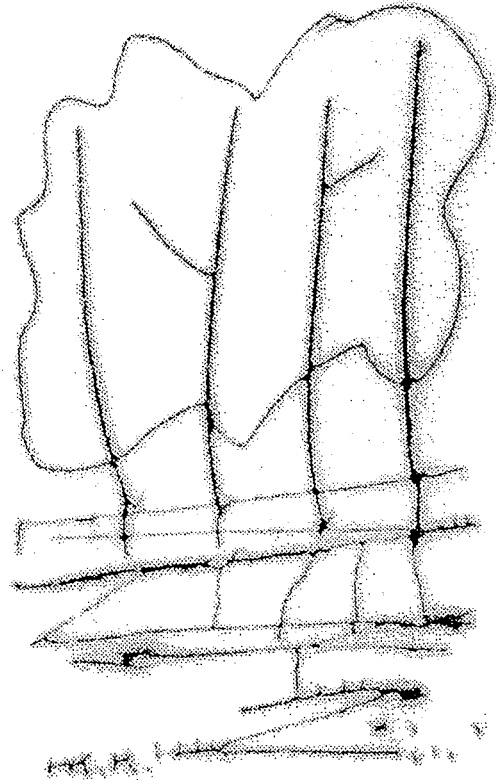
考正平九年合戦の後深田義教は武州入道人土安部貞信の妹と且理極太夫の妻と  
 二歳の子と創て其像力まとい給ふ事武州の  
 賜ひけり此男ナ



成長して其地は白濁の教團の別荘にありしを其地を以て其寺の靈場と爲す  
 義教將軍の幕下ニ在りし藤原清衡是也  
 返り清衡軍武州轉進ニ在りし武州本領より山本郡金沢ノ城より  
 義教將軍ニ武州本領を賜はりし事也

正平寺ニ在りし法蓮寺は其地は白濁の教團の別荘にありしを其地を以て其寺の靈場と爲す  
 其地は昔は白濁の教團の別荘にありしを其地を以て其寺の靈場と爲す  
 其地は昔は白濁の教團の別荘にありしを其地を以て其寺の靈場と爲す

雪乃大尉跋(十三)



## \* 第一章 御嶽山と盆地

歴史散歩へ、まずはぶらりと出かけましょうか。

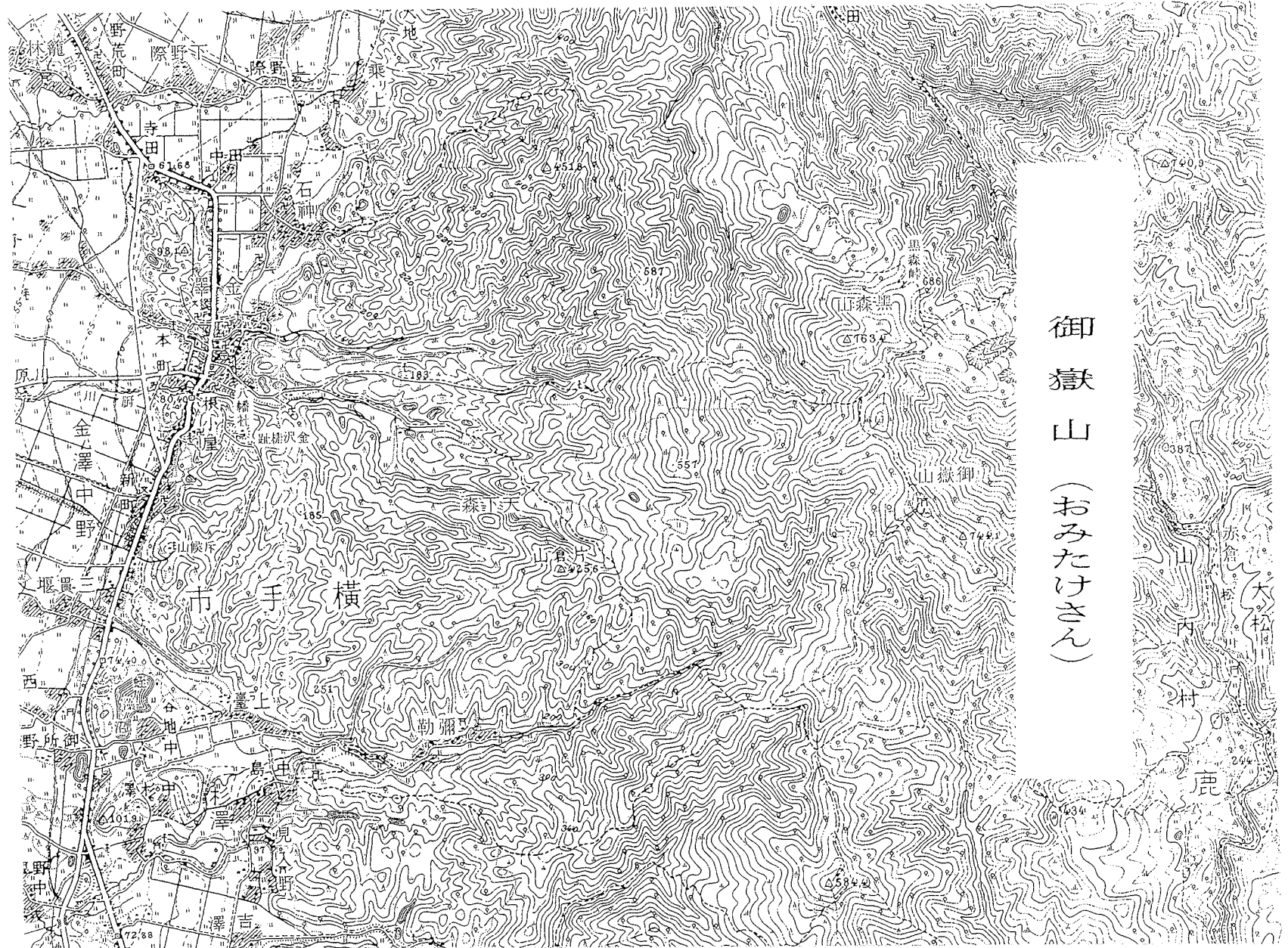
この第一章では、横手の古代への散歩ということになります。古代への散歩の道すじは、書かれたものもなく、あるとすれば、古くからの言い伝え（伝承）を書いた伝承古記録にたよるほかありません。古い神社とか、また、お寺などにある古記録が手がかかります。そうした古記録を頼りにするほかありません。

古記録は主に、『雪の出羽路』から探すことになります。これは紀行家・菅江真澄が、秋田の地をくまなく歩き、見聞きしたことを記録したもの。横手・平鹿地方をたずねたのは文政（二八〇〜三〇）頃といわれますが、この記録にたよることになります。

でも、伝承古記録というものは、史実そのものとは言えません。では、いっさいを否定してしまってもいいのか、そうではないということ。伝承は史実そのものではないのだが、昔の人が伝えたかったこと、何をこそ言い伝えたかったかを探ることを通して、見えてくるものをつかむことはできるでしょう。昔の人の思いとか、くらしを通しての願いか夢とかを知ることができないのではないのでしょうか。伝承をうのみにすることはできないけれど、伝えられていること、その思い、願いを、その時代にふかくつなげ、みつめてみることでみえてくるものをだいにしたいものです。

ぶらり、散歩です。疑問がわいたら図書館へ行くなり、歴史の先生に聞いてみて、もう一度考えてみるのもたいせつなことでしょう。

まずは、ぶらり、散歩です。



御嶽山 (おみたけさん)